

第2章 第2期における特定健診及び特定保健指導等の実施状況

1 特定健診の実施状況

(1) 第2期における特定健診の実施状況

ア 受診率の推移

平成25年度から平成28年度の受診率の推移を見ると、年平均約1.4%、全体で4.1%上昇しています。しかし、依然10%台の受診率であり、目標値には達していません。

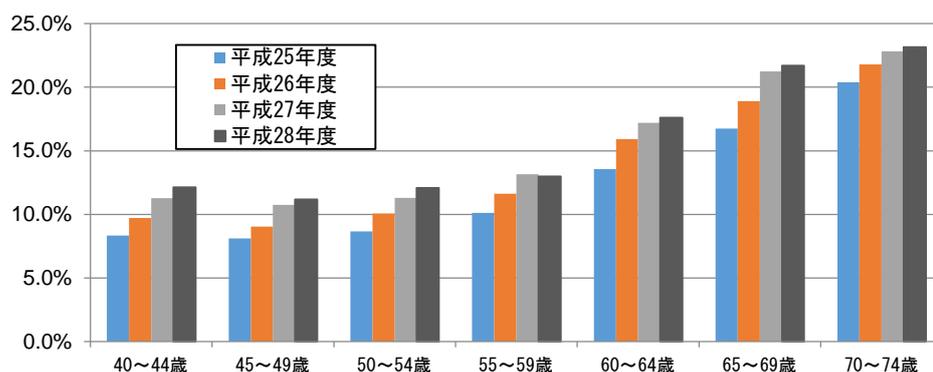
区分	目標値	受診率	対象者数	受診者数
平成25年度	20%	15.0%	185,787人	27,948人
平成26年度	26%	16.9%	182,723人	30,923人
平成27年度	32%	18.6%	176,153人	32,788人
平成28年度	39%	19.1%	168,859人	32,249人
平成29年度	45%			

イ 年齢別受診率の推移

平成25年度から平成28年度の年齢別受診率を見ると、どの年代でも受診率は上昇し、特に65～69歳で5ポイント上昇しています。

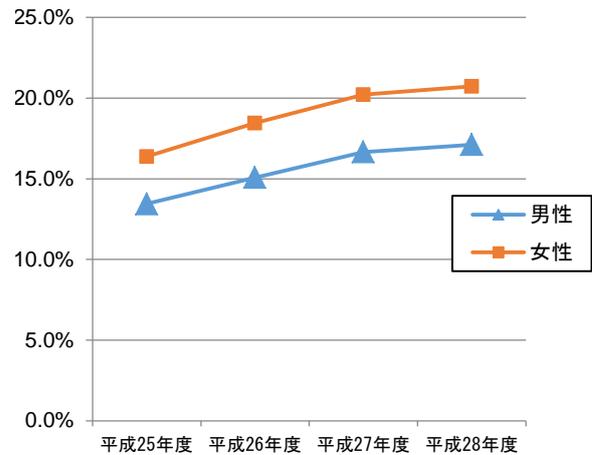
一方、40歳代、50歳代の受診率は10%台前半で特に低く、今後、若い世代の受診率を上げていくことが課題です。

		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	計
平成25年度	対象者(人)	14,881	12,468	10,935	13,490	30,353	51,429	52,231	185,787
	受診者(人)	1,240	1,013	947	1,364	4,119	8,612	10,653	27,948
	受診率	8.3%	8.1%	8.7%	10.1%	13.6%	16.7%	20.4%	15.0%
平成26年度	対象者(人)	14,153	12,350	10,678	12,641	26,289	52,985	53,627	182,723
	受診者(人)	1,374	1,117	1,075	1,469	4,185	10,019	11,684	30,923
	受診率	9.7%	9.0%	10.1%	11.6%	15.9%	18.9%	21.8%	16.9%
平成27年度	対象者(人)	12,992	12,069	10,346	11,527	22,909	54,699	51,611	176,153
	受診者(人)	1,465	1,296	1,169	1,518	3,942	11,617	11,781	32,788
	受診率	11.3%	10.7%	11.3%	13.2%	17.2%	21.2%	22.8%	18.6%
平成28年度	対象者(人)	11,965	12,160	9,833	10,715	20,258	52,298	51,630	168,859
	受診者(人)	1,452	1,359	1,187	1,391	3,565	11,341	11,954	32,249
	受診率	12.1%	11.2%	12.1%	13.0%	17.6%	21.7%	23.2%	19.1%



性別受診率では、平成25年度から平成28年度の4年間で、一貫して女性の方が男性よりも受診率が高い傾向にあります。

		男性	女性	計
平成25年度	対象者(人)	84,178	101,609	185,787
	受診者(人)	11,316	16,632	27,948
	受診率	13.4%	16.4%	15.0%
平成26年度	対象者(人)	82,571	100,152	182,723
	受診者(人)	12,446	18,477	30,923
	受診率	15.1%	18.4%	16.9%
平成27年度	対象者(人)	79,354	96,799	176,153
	受診者(人)	13,221	19,567	32,788
	受診率	16.7%	20.2%	18.6%
平成28年度	対象者(人)	76,083	92,776	168,859
	受診者(人)	13,024	19,225	32,249
	受診率	17.1%	20.7%	19.1%

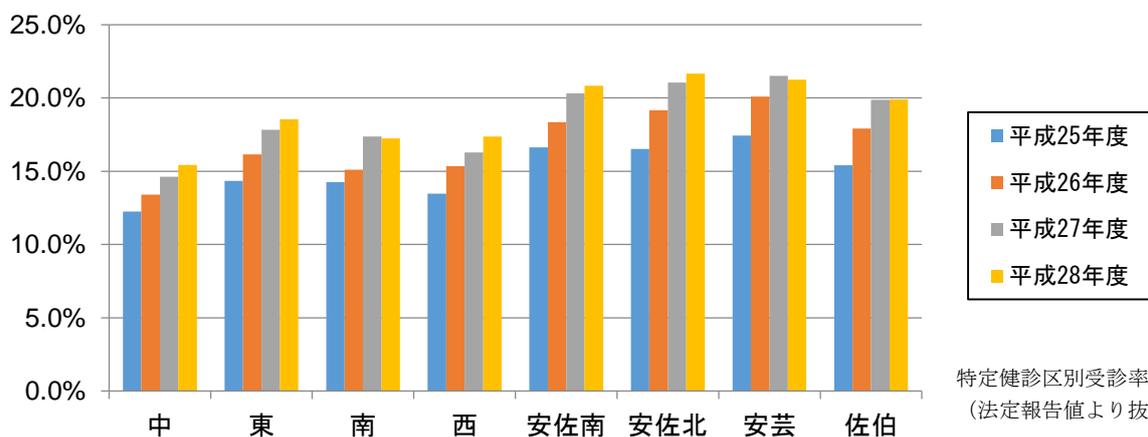


特定健診性別受診率の推移
(法定報告値より抜粋)

エ 区別受診率の推移

区別受診率では、平成25年度から平成28年度の4年間で、全区が一度も受診率を下げることなく上昇しています。中区・東区・南区・西区の中心部よりも、周辺区の方が受診率が高い傾向があります。

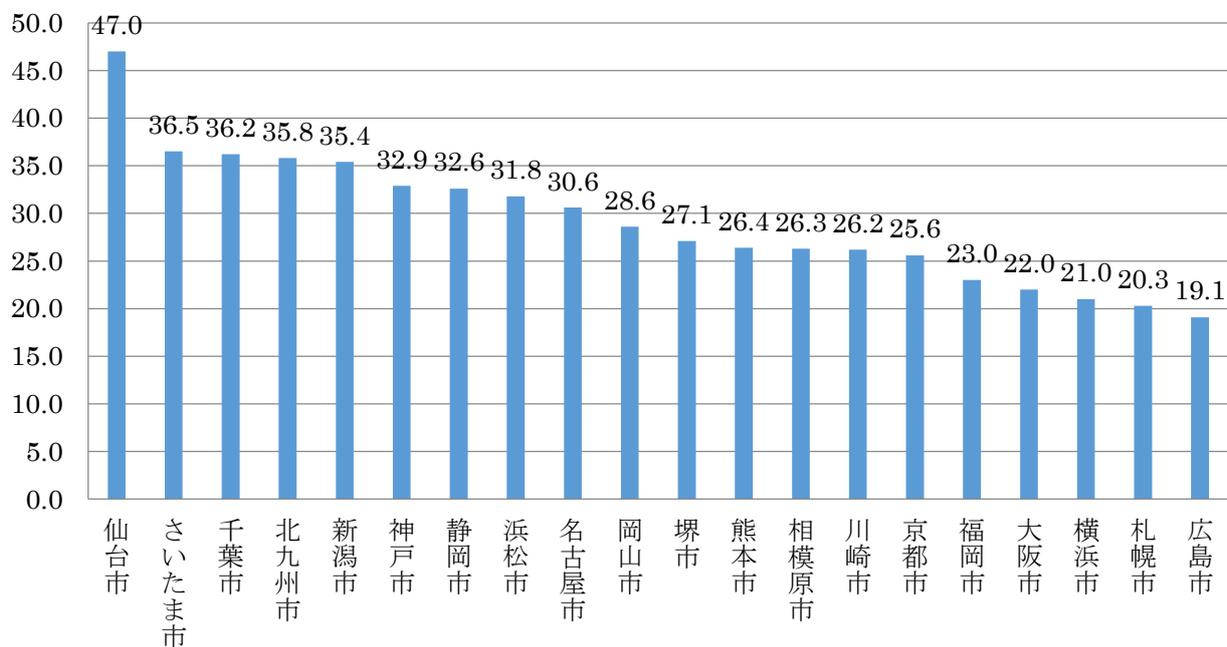
		中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯	計
平成25年度	対象者(人)	21,491	19,437	21,180	27,036	33,354	28,848	12,485	21,956	185,787
	受診者(人)	2,631	2,789	3,019	3,640	5,545	4,765	2,177	3,382	27,948
	受診率	12.2%	14.3%	14.3%	13.5%	16.6%	16.5%	17.4%	15.4%	15.0%
平成26年度	対象者(人)	21,264	19,037	20,872	26,548	32,631	28,411	12,229	21,731	182,723
	受診者(人)	2,850	3,072	3,150	4,074	5,986	5,441	2,458	3,892	30,923
	受診率	13.4%	16.1%	15.1%	15.3%	18.3%	19.2%	20.1%	17.9%	16.9%
平成27年度	対象者(人)	20,399	18,296	20,001	25,591	31,480	27,438	11,760	21,188	176,153
	受診者(人)	2,983	3,262	3,474	4,163	6,392	5,775	2,529	4,210	32,788
	受診率	14.6%	17.8%	17.4%	16.3%	20.3%	21.0%	21.5%	19.9%	18.6%
平成28年度	対象者(人)	19,619	17,457	19,207	24,606	30,088	26,219	11,220	20,443	168,859
	受診者(人)	3,027	3,237	3,311	4,276	6,268	5,680	2,384	4,066	32,249
	受診率	15.4%	18.5%	17.2%	17.4%	20.8%	21.7%	21.2%	19.9%	19.1%



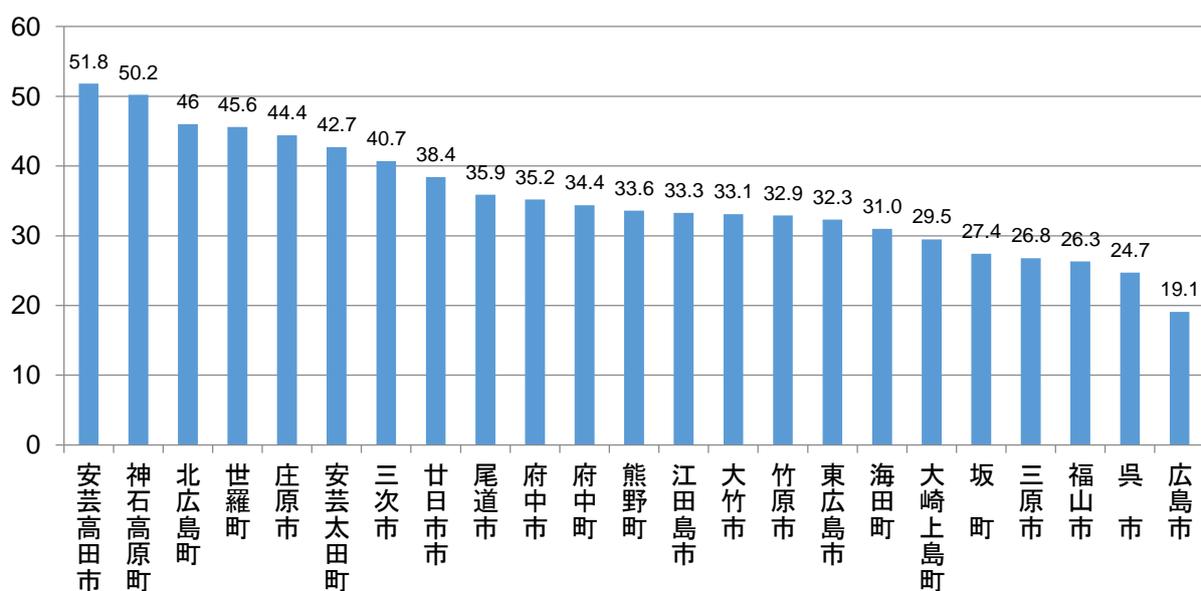
特定健診区別受診率の推移
(法定報告値より抜粋)

オ 政令指定都市及び広島県内各市町との受診率比較（平成 28 年度法定報告値）

平成 28 年度の政令指定都市及び広島県内各市町との受診率比較では、広島市はどちらも最下位の受診率であり、受診率の向上が喫緊の課題です。



平成 28 年度 政令指定都市における特定健診受診率
(法定報告値より抜粋)



平成 28 年度 県内各市町における特定健診受診率
(法定報告値より抜粋)

(2) 第2期における特定健診受診率向上への取組

ア 自己負担額減免の拡大

平成26年度に、自己負担額を1,300円から500円に引き下げました。また、平成29年度からは、それまで70歳以上だった自己負担無料の対象を、60歳以上に拡大しました。

イ 検査項目の追加実施

平成25年度から、医療費の多くを占める腎疾患の予防及び早期発見を目的として、血清クレアチニン検査を全員に追加実施しています。また、平成28年度からは、検査項目の充実による生活習慣病の早期発見と受診率向上を目的として、血清尿酸と貧血検査を全員に追加実施しています。

ウ がん検診との同時実施と回数の拡充

対象者がより健（検）診を受診しやすい環境を整備するため、平成25年度から集団検診における5種類のがん検診との同時実施を行っています。当初は年間3回でしたが、徐々に回数を拡充し、平成29年度は50回実施しています。

●集団検診におけるがん検診との同時実施回数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
回数	3回	21回	43回	50回	50回

エ 健診サポーターによる地域住民への健診受診の呼びかけ

平成25年度から、広島市公衆衛生推進協議会との協働で、健診受診を呼びかける健診サポーターを養成し、地域住民に啓発チラシや健診カードを配布して周知啓発と受診勧奨を実施しています。

オ 対象者への情報提供の実施

ホームページや広報紙等での広報に加え、平成27年度から、国民健康保険被保険者証更新時に送付する特定健診の案内チラシの内容を充実させました。また、平成28年度からは、初めて特定健診の対象となる40歳の被保険者に受診勧奨チラシを送付しており、平成29年度は被用者保険から国保に切り替わる60歳、65歳にも対象を拡大してチラシを送付しています。

カ 認知度向上のための愛称の設定

市民に広く特定健診を知ってもらい、また身近に感じてもらうため、「元気じゃ健診」の愛称を設定しPRしました。

キ 未受診者への受診勧奨の拡充

平成23年度から、特定健診未受診者への受診勧奨通知の送付（約9万通）を継続して実施しています。また、電話による受診勧奨も継続実施しており、平成29年度は、それまでの2,000人から6,000人に拡大して実施しました。

ク 治療中の方の情報提供事業（みなし健診）の開始

平成 29 年度から、医療機関で治療中の方について、治療のために検査した項目に、特定健診に不足する検査項目を追加実施し、その検査データを医療機関から広島市に情報提供してもらうことで、特定健診を受けたとみなす事業を開始しました。これにより、すでに治療中の方の負担軽減と受診率の向上を図っています。

ケ 医師会や地域団体等と連携した重層的な受診勧奨

受診率向上のために、広く地域住民に特定健診の情報提供と受診勧奨を行うために、医師会や地域団体等の関係機関と連携した重層的な受診勧奨を実施しています。

コ 広島市特定健診の受診率向上に関する検討委員会の開催

特定健診の受診率向上に向けて、平成 29 年 3 月から「広島市特定健診の受診率向上に関する検討委員会」を開催し、大学・医師会・関係機関等と連携して、取組内容について検討しました。

2 特定保健指導の実施状況

(1) 第2期における特定保健指導の実施状況

ア 実施率の推移

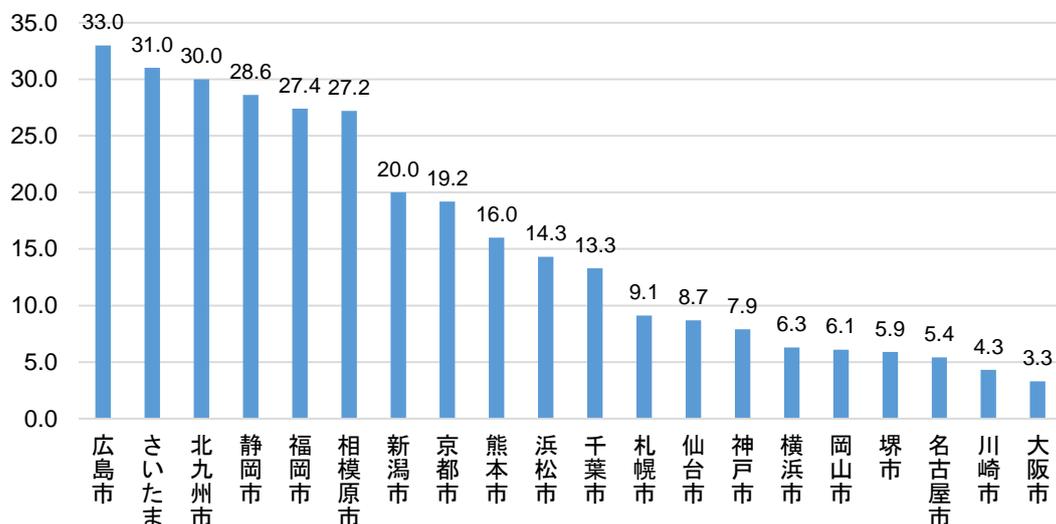
実施率は年々増加していますが、積極的支援の実施率は低い状況であり、各年度の目標には達していません。

平成28年度の全受診者のうち、積極的支援対象者は、9.2%、動機付け支援対象者は9.7%で、特定保健指導対象者(積極的支援と動機付け支援対象者)は12.4%であり、全体の受診者の約1割を占めています。

	積極的支援				動機付け支援				特定保健指導			
	対象者数		終了者		対象者数		終了者		対象者		終了者	
		%		%		%		%		%		%
H25	804	2.9	92	11.4	2,602	9.3	1,086	41.7	3,406	12.2	1,178	34.6
H26	854	9.3	50	5.9	2,987	9.7	1,102	36.9	3,841	12.4	1,152	30.0
H27	921	9.8	87	9.4	3,079	9.4	1,099	35.7	4,000	12.2	1,186	29.7
H28	864	9.2	125	14.5	3,132	9.7	1,181	37.7	3,996	12.4	1,306	32.7

イ 政令指定都市及び広島県内他市町との受診率比較 (平成28年度法定報告値)

平成28年度の政令指定都市との実施率比較では、広島市は1位でした。



平成28年度 特定保健指導実施率
(法定報告値より抜粋)

(2) 特定保健指導の利用の有無による比較

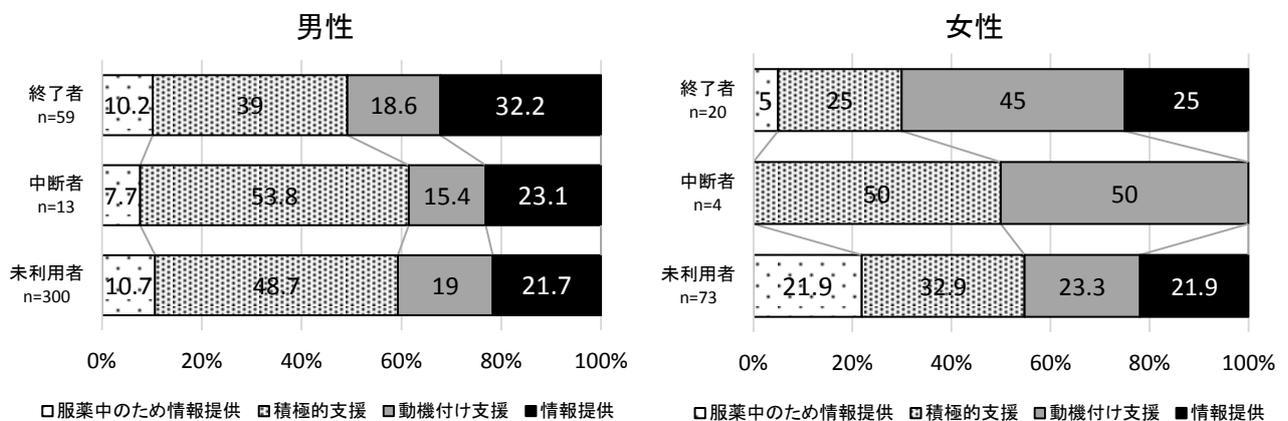
平成 27 年度の特定保健指導（積極的支援及び動機付け支援）対象者のうち、平成 28 年度も引き続き特定健診を受診した者 1,321 人（うち積極的支援 129 人、動機付け支援 1,192 人）について、平成 27 年度の特定保健指導の終了者と中断者、未利用者に区分し、保健指導レベルやメタボリックシンドロームの該当者割合、有所見者の割合を比較しました。

ア 積極的支援対象者の比較

(ア) 特定保健指導レベルの該当状況の比較

平成 27 年度平成 28 年度の 2 年連続で「積極的支援」に該当した方は、男女ともに、特定保健指導終了者の方が割合が低くなっています。

一方、「情報提供レベル」の方は、特定保健指導終了者の方が未利用者よりも割合が高くなっています。



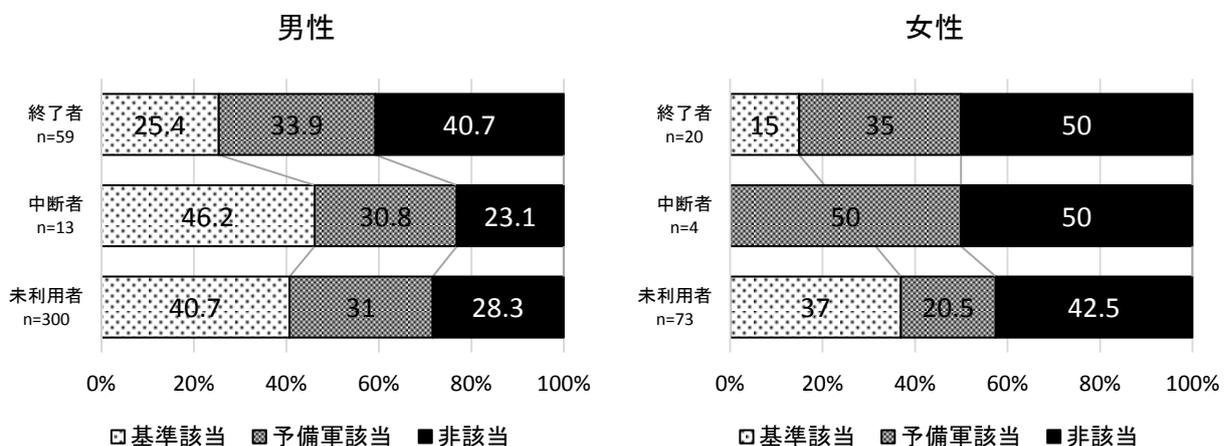
第 2 期データヘルス計画ポテンシャル分析別冊より抜粋

(イ) メタボリックシンドローム該当者の比較

平成 27 年度の特定保健指導を終了した方の方が、男女ともに、翌年のメタボリックシンドロームの該当割合が低くなっています。

また、未利用者の基準該当者及び予備軍該当者をみると、対象者のうち男性で約 7 割、女性で約 6 割を占めています。

男女共に、メタボリックシンドロームの基準該当者および予備軍該当者は、保健指導終了者の方が少ない結果となりました。

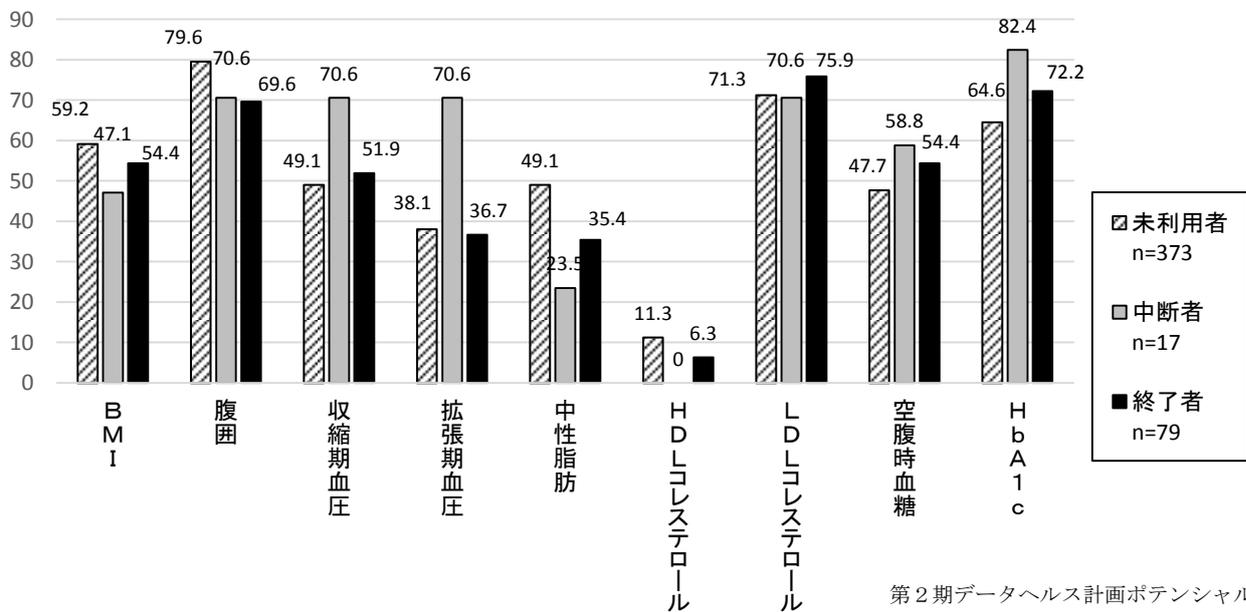


第 2 期データヘルス計画ポテンシャル分析別冊より抜粋

(ウ) 健診項目別有所見者割合の比較

平成 28 年度の特定健診結果を健診項目別比較しました。

9 項目のうち、BMI、腹囲、拡張期血圧、中性脂肪、HDL コレステロールの 5 項目については、指導終了者の方が有所見割合は低かったですが、収縮期血圧、LDL コレステロール、空腹時血糖、HbA1c の 4 項目については未利用者の方が有所見者割合は低い結果となりました。



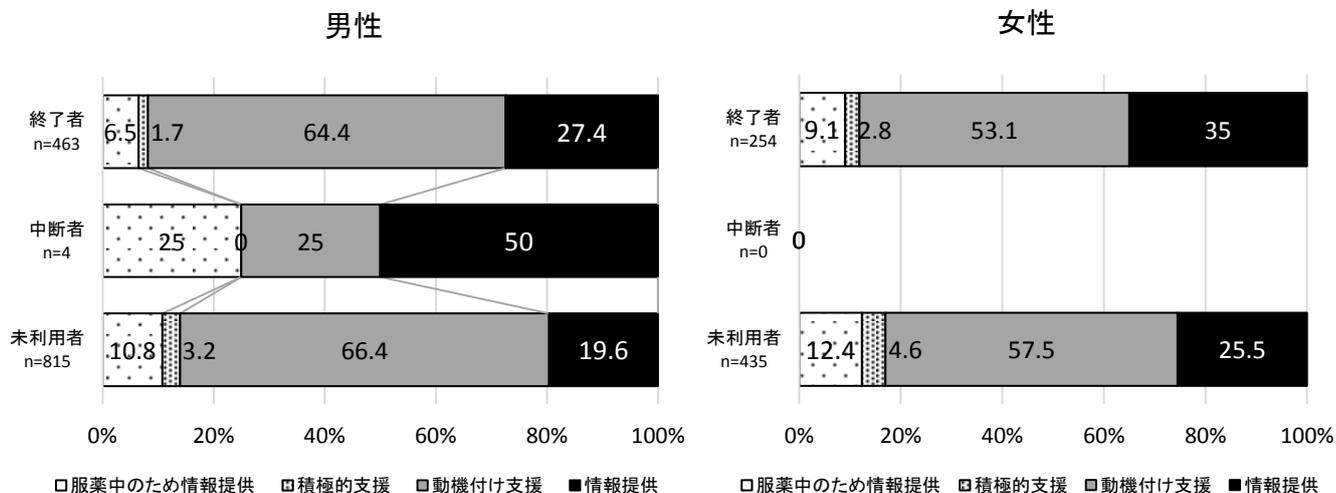
第 2 期データヘルス計画ポテンシャル分析別冊より抜粋

イ 動機付け支援対象者の比較

(ア) 特定保健指導レベルの該当状況の比較

平成 27 年度平成 28 年度の 2 年連続で「動機付け支援」に該当した方は、男女ともに、特定保健指導終了者の方が割合が低くなっています。

一方、「情報提供レベル」の方は、特定保健指導終了者の方が未利用者よりも割合が高くなっています。



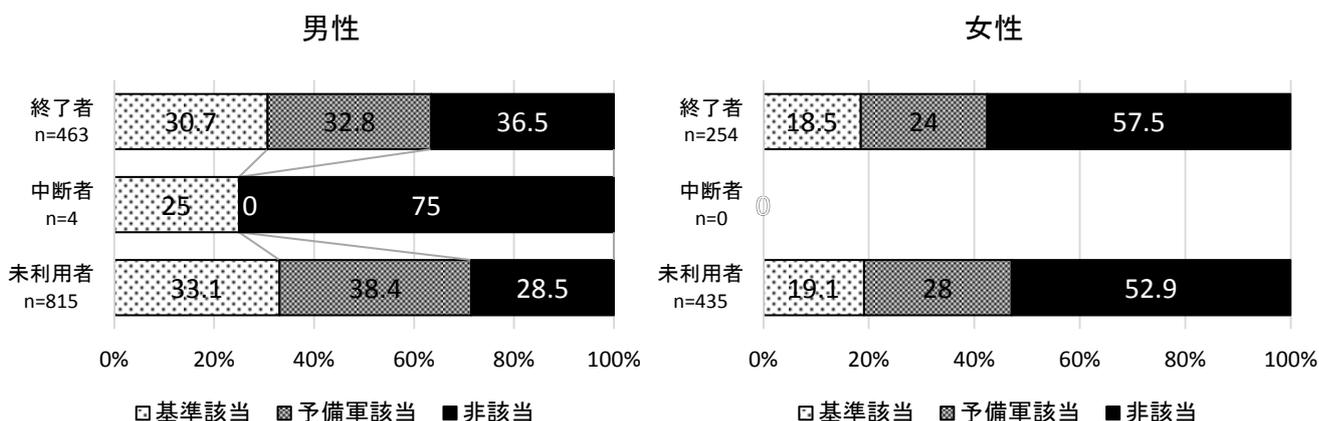
第 2 期データヘルス計画ポテンシャル分析別冊より抜粋

(イ) メタボリックシンドローム該当者の比較

平成 27 年度の特定保健指導を終了した方が、男女ともに、翌年のメタボリックシンドロームの該当割合が低くなっています。

また、未利用者の基準該当者及び予備軍該当者をみると、対象者のうち男性で約 7 割、女性で約 5 割を占めています。

男女共に、メタボリックシンドロームの基準該当者および予備軍該当者は、保健指導終了者の方が少ない結果となりました。

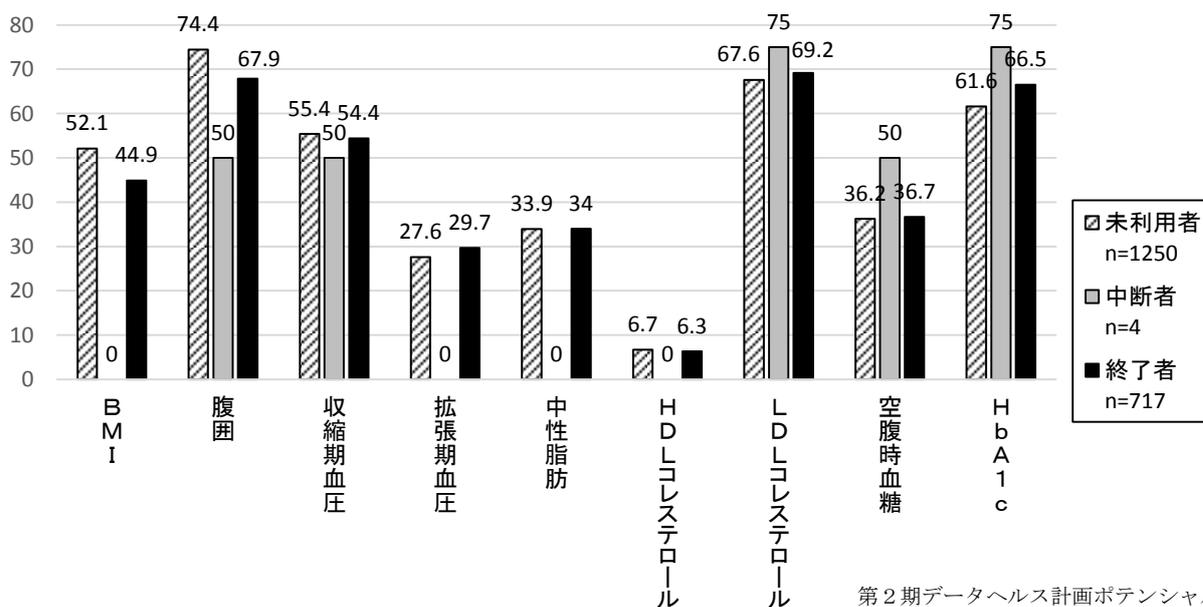


第 2 期データヘルス計画ポテンシャル分析別冊より抜粋

(ウ) 健診項目別有所見者割合の比較

平成 28 年度の特定健診結果を健診項目別比較しました。

9 項目のうち、BMI、腹囲、拡張期血圧、中性脂肪、HDL コレステロールの 5 項目については、指導終了者の方が有所見割合は低かったですが、収縮期血圧、LDL コレステロール、空腹時血糖、HbA1c の 4 項目については未利用者の方が有所見者割合は低い結果となりました。

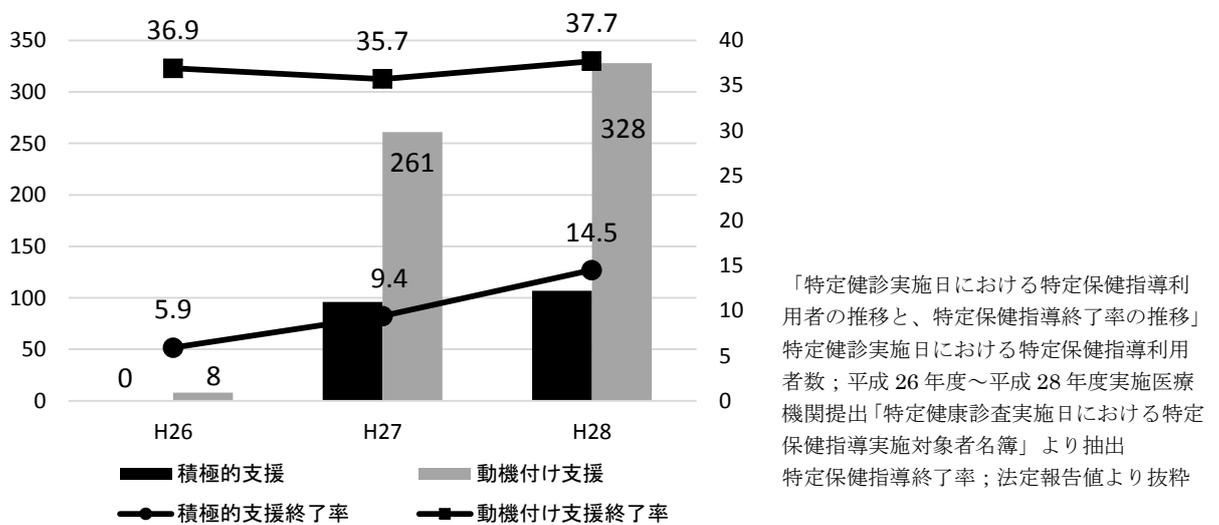


第 2 期データヘルス計画ポテンシャル分析別冊より抜粋

(3) 特定健診実施日における特定保健指導の実施状況（同日実施）

平成 26 年度から、特定保健指導の利用率向上を目的とし、特定健診受診日当日の特定保健指導を実施しています。利用者数は年々増加し、平成 28 年度には 435 人（特定保健指導対象者のうち 10.9%）でした。また、同日実施件数の増加と共に、特定保健指導の終了率の増加が見られ、特に積極的支援の終了率の増加が認められます。

	積極的支援利用者		動機付け支援利用者		特定保健指導	
	実数	%	実数	%	実数	%
H26	0	0	8	0.27	8	0.2
H27	96	10.4	261	8.5	357	8.9
H28	107	12.4	328	10.5	335	8.4



(4) メタボリックシンドロームの該当者及び予備群等の減少率（対 20 年度比）

平成 20 年度と比較したメタボリックシンドローム該当者等の減少率を見ると、8.0%であり、目標としている 25%に及びませんでした。

ただし、この中には、服薬者も含まれており、より詳しく特定保健指導の効果を見るため、非服薬者におけるメタボリックシンドローム該当者の減少率を見ると、各年度とも減少傾向にありました。

また、特定保健指導対象者数の減少率を見ると、減少率は年度ごとにバラつきが見られました。

	メタボリックシンドローム該当者及び予備群者の減少率	非服薬者のうちのメタボリックシンドローム該当者及び予備軍者の減少率	特定保健指導対象者数の減少率
H25	7.9%	19.5%	16.5%
H26	7.7%	19.5%	15.0%
H27	8.2%	21.3%	17.5%
H28	8.0%	22.6%	16.1%